

2016

書き込み式絵本

Rewritable book

AD 19 佐藤 萌
指導教員 井上 謙

1. 研究目的

言葉から画像を想像するのではなく、テレビなどで直接画像を与えられることが当たり前になっている現在は、子供たちの想像力や発想力が低下していると言われている。

そこで遊びの中でその力を補っていくために、繰り返し書くことのできる絵本を作ることを本卒業研究の目的とした。

2. 調査と分析

繰り返し書くことが可能な素材の確保と、導入部を与える内容が求められた。

①本の材質

繰り返し書けること、強度への配慮から、紙そのものをラミネート加工する、OHPシート、ホワイトボードシートという三点に重点を置き分析を進めた。

②子供に書きやすいイラスト

塗り絵を参考に見てみると、主線を太く安定した物が用いられることが多いことが分かった。

③絵本のサイズ

ターゲットユーザーの幼稚園児(保育園児)が一般的に用いるカバンのサイズを調査した。今回はその中で最も小さい部類のカバンでも入るように、重箱判(182×206mm)を選んだ。

3. コンセプトの立案

遊ぶごとに新しい発見のある絵本:子供とともに進化、成長する絵本。

- ・飽きずに何度でも、楽しく遊べる
- ・子供の自由な発想を邪魔せずに引き出す。

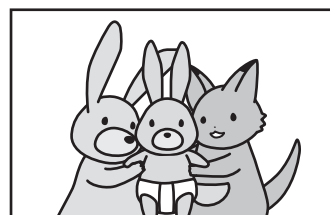
4. デザイン展開

調査結果から紙はラミネート加工案を採用し、線を安定した太く塗りやすい絵でキャラクターや前景を作る。

メインとなる二匹のキャラクターにはあえて特定の動物を使わず、色の使い方や模様しだいで様々な生き物に見えるようにし、同時に背景は主線を使用せず、薄い色の重なりだけで表現し、子供達が新しい要素を書き加える際の障害にならないよう配慮した。

また三冊一組となるこの本は、子供たちが新しいスタイルになじみやすいように、導入部である一冊目は塗り絵的要素が主流であるのに対し、二冊目は絵の書き足しが中心となり、三冊目はこの複合というように、段階分けした構造になっている。

5. 完成図



6. 結論

一般の方を対象にアンケートをした結果を見ると、今回製作したものよりも大きなサイズのほうが、子供が遊びやすいのではないだろうかという意見が多かった。今回は通園カバンに入るという前提の元を選んでサイズであったが、将来的には大きなサイズ判も検討したい。

また今回は三冊一組としたが、ここに完全に真っ白な四冊目があってもよいのでは、防水加工であることを生かしたお風呂で使える本にしては、などの意見も出た。

私自身もせっかくリング製本の形態をとったので、今後は子供がページの並びを自由に変えられる本など、幅広い発展を上記の話とともに検討していきたいと思った。

また子供たちに実際に遊んでもらったところ、私が考えていたのとは違う遊び方も提示してくれた。会話も弾み、親子の話題づくりにも貢献できるとの手応えを感じた。

全体として遊んでみていただいた結果はどれも好印象で、「今までありそうでなかった」「面白い」等の感想を貰うことができた。

7. 参考文献

- ・ぬりえ美術館
<http://www.nurie.jp/index.html>
- ・子供と絵本の世界
<http://www.yymsrk.com/index.html>